

---

# ghosta city ? ( ゴーストシティ 2 )

零夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ghost city ? (ゴーストシティ?)

### 【Zコード】

Z9864Y

### 【作者名】

零夜

### 【あらすじ】

クリスマスの事件以降。  
戦争を終わらせるべく。  
約束を交わした。悪霊達がいた。  
その一人。響 蓮痔  
彼の物語が始まる。

## スタート

俺は、1響 蓮痔

あのクリスマスの後、俺は、自分の住んでいた町に帰っていた。  
まあ、さつそく学校な訳だけど . .

突然だが。この世にBADENDがあるとすれば、  
俺が今感じているのが現実のBADEND。  
どう言う事か?と問われれば。こう答える。

俺には、会いたくない奴がいる。

その会いたくない奴が、

「よう!..今日もきめつちやつて!..かつこいいね!..」  
まさに今日の前で挨拶代わりにこんな事を言つてくる。

まさにそいつが会いたくない奴だ。

彼の名前は、1小林 透

そういうのは、面倒な奴だ。

と言つのは、こいつといると。

上から、とりのフンが落ちてきたり。

中一が仕掛けた。落とし穴に。

学園の俺が引っかかる。中学校とは、違う。かと言つて。高校でも

ない。

学園。

そこに俺は通つていてる。

俺にみれんと言えば。

親が勝手に離婚し、再婚した。相手に、

俺は、反対だったため。

そいつに殺された事、

戻つたら絶対にあいつを殺す。

当時は、そう思つていたが今は、違う。

もうその新しい父は、死んでいるのだから。

「そりゃ俺のみれんば、そいつを殴らうしぃ。」

勝手に行かれたことだ。

そんな事を考へながら

鳥のヘンのおとには小林を使つたり

「お前女には扱と僕のことを言ふが、

俺は、静かに登校する。こ

そして、校舎に着くと、ボロボロになつた小林に。

靴をはきかえ。

教室に入る

「何が？」

「悪いー・・お前、そう言つキャラだから。」

「キャラを勝手に決めないでください。悲しいです。」

知る力

第一回 金玉良緣 話說金玉良緣

「確か」仔細ざざー!! めのう一ぱつ形でね!!

童心の形

## 俺の中で一つの疑問。

「例えば・・・どんな?」

「あるだろ？かつこいい奴の周りのハーレム状態のキヤーキヤー

! !

は  
れ  
む  
?

「そう！ まさに両手に花！！ みたいにな？ 僕が以上にモテル！！ みた

「ないな

「ないな  
・  
」

俺は、即答する。

そして、がっかりする顔を見る。

口から、言葉がでる。

「即答かよ。」

女子「ああー！居た居たー！あんた？朝の小林？ちょっと来いよ？」

「助けてくれえー」

「やだ」

俺はああ言つ奴には関わりたくない。

そして授業。

普通の学校と違つて。

今日の授業と言うのがある。

終わる時間がだいたい。夕方5時か6：30分。

今日は、プラネタリウムに行くそうだ。

体育館の悲鳴。（前書き）

俺は、響 蓮痔。

最近、校舎中で、変な噂が立っていた。

## 体育館の悲鳴

「本当らじしごぜ？あの噂」

「えええ？まじでえー？こわーい」

クラスから聽こえる。怖いと言ひ噂話の声、  
なんでも・・最近我が校舎では、  
変な噂が立っていた。

夜中に、体育館から、悲鳴が聞こえると言ひ事らしい。

「おーい！イケメン！クールー！」

と、朝から噂の話をしているのに、

まるで修学旅行やなんかで、怖い話をしているところに空氣の読め  
ない馬鹿ちゃんが

いきなり的はずれな事を言つようだつた。

「お前・・今の雰囲気知らないのか？」

「なんだ？なんだ？かわいい子か？」

やはりこの男は、女の子としか考えていないよつだ。  
こいつが俺の友達って事が悲しいよ・・

「違う・・噂だ。」

「ああ、最近流行の体育館の噂、だろ？」

「そうだ。俺さ・・その噂、今夜一人で探ろうと思つて、クラスメ  
イトの言葉から、  
情報を集めてた。」

変わった奴だと俺は、思った。蓮痔は、いつも変わった奴だ。  
わざわざ、こんなあぶねえ噂に手を染めよくなんて；  
俺は、ごめんだぜ。

「まあ・・がんばれよ」

「お前に応援されても・・嬉しくないな。」

「なつ・・ああ、そうかい！・・話のわからない奴目・・じゃあなあ  
！・・」

「何言つてる？」

俺の方に手が置かれる。

「な、なんだよ。その手」

「お前も来るんだよ。」

「ああ、俺今日、木曜だろ？だから」

「今日、金曜」

「おれ、放課後先生に悪さして呼びださ」

「お前がそんな事する勇氣……ないだろ？」

「うう……ああ！――わかったよ行けばいいんだひ――行けば

「じゃあ……夜中一時に。校門で」

「了解

そして時間。

「透遅いな。」

「よ……よあ

「やつと来たか。じゃあ、行くか

「はやつ！――

そして、怖がる透を無理やり連れて行く。

「そろそろ……だな。」

そのとき、ガタンっと音がした。

「うわああああああああああああ――――――

……逃げ足早

「結局……透は逃げたのか……はあ

その時。

「バンッ

銃声

これは、お化けじゃないな……

俺は、体育館の中を注意を払いながら、進む。

「ははは――その程度の動きだな？」

「ちつ……私の天上の力でもかなわない……

「それは、そうだ――私は、スピードの速い。風だから、

風 . .

あんな使い方か？  
また銃声。

「うつ . . えつ？」

「誰だ！」

「風のまともな使い方を教えてやるよ . .

「だれだ！」

「俺？ そうだな？ 悪靈 . .」

「何つ . .」

「後ろだ。」

「何つ？ グつ！ – 食らえ！ –！」

「敵の武器を確認 . . 武器アサルトライフル . . 相手の弾数とスピードを計算 . .

完了。処理行動開始」

「ちつ . . 計算能力も兼ね備えた風か . .  
「風だと . .」

「さて . . そろそろ飽きた。じゃあな。」

俺は、飛んできた弾を。風圧を聞かせ。スピードを強化し奴の心臓部に返した。

「ぶが . . がはつ」

「大丈夫か？」

「大丈夫です . . 貴方は、誰？」

「俺は、響蓮痔 . . お前、名前は、？」

「私は、1氷李菖蒲

「どうかよろしくな」

握手を求めたが

「貴方をまだ。正式に仲間とは、認識できていませんので . .  
とクールに返される。

俺の助け . . なんだつたわけ？

と言ひ事で。異常なほどクールな少女と出会ってしまったのだ。

うるべ

## 体育館の悲鳴（後書き）

夜な夜な聞こえる。体育館からの悲鳴、  
それは、噂になっていた。それがなんなんのか本当に噂、なのだろうか？

それとも・・ほかの何かが確かめるべく。蓮痔が動き出す。  
戦争をとめるために立ち上がる。悪霊たち、物語は加速する。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9864y/>

ghosta city ? ( ゴーストシティ 2 )

2011年12月1日19時45分発行